

プロセス指標の概要について

○がん検診受診率

がん検診の対象者のうち、実際の受診者の割合。受診率は高いことが望ましい。

○要精検率

がん検診受診者のうち、精密検査が必要とされた者の割合。要精検率が高い場合には、精密検査が必要でない者が「要精検」と判定されている可能性があり、逆に要精検率が低い場合にはがんを早期かつ適切に発見できていない可能性がある。

一般的には要精検率はがんの有病率の高い集団では高く、有病率の低い集団では低くなる。

○精検受診率

要精検者のうち、精密検査を受けた者の割合。精検受診率は高いことが望ましい。

○陽性反応適中度

検診結果が「要精検」の者のうち、がんが発見された者の割合。基本的には高い値が望ましい。

○がん発見率

がん検診受診者のうち、がんが発見された者の割合。がん発見率は高いことが望ましい。